

三河本苑だより

令和4年6月19日新しい神の家竣工奉告祭

亀山建設株式会社様へのお礼の挨拶

本苑長：加藤 三樹

この度、神威輝く立派なご神殿を完成して下さいました亀山建設株式会社様、屋根の瓦を丁寧に、丁寧に葺いて下さいましたオザワコーポレーション様へのお礼として、先程贈呈しました感謝状の言葉と記念品に込めた思いをお話します。

まずは感謝状の言葉に込めた思いです。皆さん、亀山建設さんの経営理念を知っていますか。今年1月まで、建物の外周の足場に掲げてありました垂れ幕に大きく書かれていました。経営理念は「技と心と夢の深まり」です。この中の「技」は、伝統ある日本建築の感性と技術です。「心」は「誠実を尽くす」、誠を真実で、行動で示すことです。大本が目指す人、「言心行一致の誠を尽くす」と同じです。「夢の深まり」は、この技と心を以って、日



竣工奉告祭

施工業者を決める際、亀山社長さんは「屋根の形を神社らしい設計に直すことを許されればお引き受けます。設計変更は、当社で、無償でさせていただきます」と言われました。大工職人魂を、また鍛錬された匠の技で日本の伝統

8月号
2022・8 No.483

（発行者）
大本三河本苑
〒443-0031
蒲郡市竹島町2-8-5
TEL.0533-69-7518
FAX0533-69-1455

お知らせ

東海教区合同 名古屋分苑開催
「葬祭研修会」受講者募集
【日時】8月27日(土)28日(日)
◎足が悪く正座が出来ない方は椅子で腰かけて受講できます。
※申込先は本苑事務局

祭務部

建築を創り続けて行こうとする、まさに経営理念にある「技」、そして「夢の深まり」への強い思いを感じました。

また、棟梁の村瀬将司さんは、大本聖地に建つ長生殿と万祥殿を、自ら進んで、2回も見学に行かれました。匠の技を更に磨き、三河本苑神の家を立派に建てようと自ら進んで行動に移す、まさに経営理念にある「心」、「誠実を尽くす」を実地に見させていただきました。

次は記念品に込めた思いです。記念品の陶芸品は、大本の職員が、大本聖地の亀山城跡にある大公孫樹の釉薬を使い、聖地にある窯で焼成して制作したものです。釉薬の大公孫樹は、亀山

尊師さまに学ぶ

「青葉に坐して」

人を悪く思うこと、妬むことが一番悪い。千人が九百九十九人までは自分の事を悪いとは思わないで他を責めたがるものだ。逆境にある者が順境にある者を嫉妬し呪詛(じゆそ)するのは類は全く人間本来の利己主義から出発しているのである。自己のみを幸福にしたいという願望が根

建設さんのある岐阜県にも縁が深い明智光秀公が手植えされたと伝わっています。

私たちは実践スローガンとして「信仰即芸術即生活」を掲げ、大本のみ教えを、また日本の伝統芸術を日々の生活の中で実践しています。伝統芸術としては、茶道、短歌、仕舞、武道、書道、絵画、生け花、先程祭典中に奏でました八雲琴、そして陶芸等に動んでいます。日本

本の伝統文化を、私たちは芸術面で、亀山建設さん建築面で守っていくと志を共有しています。記念品を使われた時、大本の「信仰即芸術即生活」を思い出していたら、ありがたく思います。

特任宣伝使 芝田 豊海

「日出磨先生之旧稿(上巻)」より 大正十三年度

本に於て常に潜んでいるので、やがて他人を下に見下したくなるのである。自分のみが大将になって他をみな自分の家来にしたいという考えが各自にあるので人はいつ迄たつても相せぬ相争うているのである。我々は如何なる場合に於いても他を責めてはならぬ。自分自身

三河本苑公式LINE



↑ コチラから
本苑だより更新中

8月の行事

●21日(日)

●本苑八月月次祭

・全体会議

●27日(土)28日(日)

●本部講師葬祭研修会

名古屋分苑と合同開催

9月の行事

●18日(日)

●本苑九月月次祭

・敬老会

●25日(日)

●宣伝使・宣伝使になるための研修会

に省み悟るべきである。この心掛けがこの世を穏やかに美しくする基本である。

○生活とか義理とかその他いろいろな人の自由を束縛するものは一面から考えると、その当人をして暫(しばらく)く心身を修練さす為に必要なことである。最初から人間が順境に生育して思うこと皆成るといふ風であったなれ、その人はなるほど天才的の技能をドシドシ発揮することは出来るが、自分だけのことはよく分か

ても逆境にある人のことは一向分らない。だからどうしても真の同情心に欠け、従ってこんな無茶な世の中に処するには適せなくなつて了(しま)う。

といつて生まれてから死ぬる迄、逆境にばかり沈んでゐるのでも堪(こた)うぬけれども、若い間に一通りいろんな苦境を味はつて人生の表裏をよく見極めるといふことは必要なことだ。奇跡や予言のみでは決して人は改悛(かいしゆん)するものではない。

人には各自に靈魂が賦与されて居り、理性が與(あた)えられており、行動の自由がゆるがされてゐる。若しひとが奇跡や予言によつて事を決して行動を左右するとせば、これ即ち人は機械同様になつて自由とか理性とかいふものは奪(うば)われてしまひ、人の人たる所以(ゆえん)が全然なくなつて了(しま)う。

現界は靈界の表象であり映像であつて靈界で起る通りが現界に起るのであるが、今もし人の行動から專(もつぱ)ら奇跡や予言に頼るとせば勢(せい)或る種の人は正当の順序によつてものを得んとはせず(に)魔術的に成果を取めんとするに至るべ

く、これが為に却(かえ)つて靈界よりの正しき内流を防げ神界の順序秩序というものを混乱せしめることになるは明らかである。

靈眼や靈耳などに就(つ)いても普通人これが與えられないが当然である。現界人に靈界の因縁がチャンと解つてしまへば到底阿保らしくて親を親として、兄弟を兄弟として敬愛する気がなくなつたり、また最初から自分は偉い素性(すじょう)すじょう(だと)惚(うぬぼ)れて一向努力せなかつたり、或は自分は非情な罪人だと悲観して捲土重来(けんご)ちようらいの意氣を失つたりしてしまうのである。

實際いまの世は敵同士が一緒になつていたり、また靈統上では同一の者が肉体では八百長喧嘩をしていたりなどしていたり、その他いろいろと比類が多いのであつて、斯(こ)うした事が現界人に肉体的に知悉(ちしつ)つ(た)えられてはとつても堪(た)えられないのである。

正神界よりする神通力はある特別な期間許されてゐる？(で)けである。普通人が神通力を得れば却つて現界の神業の妨げになるだけである。

コラム

丁さん

ある歌に思う

この歌は、パーキンソン病の歌手、樋口(ひぐち)さんの「手紙」です。歌詞はもともとポルトガル語で書かれており、日本語詞は角智織(すみ)みともおさんです。

年老いた私がある日
今までの私と違つていたとしても
どうかそのままの私のこと
理解して欲しい
私が服の上に負(お)つた物をこぼしても
靴(くつ)ひもを結び忘れても
あなたに色んなことを教えたように
見守つて欲しい

あなたと話す時 同じ話を何度も
何度も繰り返しても
その結末をどうかささげらずに
うなずいて欲しい
あなたにせがまれて繰り返して
読んだ絵本(えほん)のあなたか
結末は
いつも同じでも私の心を
平和にしてくれ

悲しい事ではないんだ 消え去つて
ゆくように見える私の心へと
励ま(こ)ましのまなざしを向けて欲しい
楽しいひと時に 私(わたし)が思(おも)はず下着(したぎ)を
濡(ぬ)らしてしまつたり
お風呂(ふろ)に入るのをいやがるときには
思い出して欲しい
あなたを追い回し 何度も着替(か)え
させたり 様々な理由(りゆう)をつけて
いやがるあなたとお風呂(ふろ)に入った儘
かしい日(ひ)のことを

悲しいことではないんだ 旅立ちの
前の準備(じゆんび)をしている私に
祝福(しゆく)の祈(いの)りを捧(た)げて欲しい

いずれ齒(は)も弱(よ)り 飲み込む事さえ
出来なくなるかも知れない
足(あし)も衰(お)えて立ち上がる事すら
出来なくなつたら
あなたが弱(よ)い足(あし)で立ち上がるうと
私(わたし)に助けを求めたように
よろめく私(わたし)にどうかあなたの手を握(にぎ)らせて欲しい

私の姿(すがた)を見て悲(かな)しんだり
自分が無力(むりき)だと思(おも)わないで欲しい
あなたを抱(か)きしめる力(ちから)がないのを知
るのはつらい事(こと)だけ
私(わたし)を理解(りかい)して 支(た)えてくれる出(い)だ
けを持(も)つていて欲しい

きつとそれだけでそれだけで私(わたし)に
は勇(ゆう)気がわいてくるのです
あなたの人生(じんせい)の始まりに
私(わたし)がしっかりと付き添(とも)つたように
私の人生(じんせい)の終わりに
少しでも付き添(とも)つて欲しい

あなたが生まれてくれたことで
私(わたし)が受(う)けた多くの喜びと
あなたに対する変わらぬ愛(あい)を持(も)つ
て笑顔(えんご)で答えたい
私(わたし)の子供(こども)たちへ 愛(あい)する子供(こども)たちへ

私(わたし)自身も終活(しゆうかつ)を進(すす)める年齢(ねんれい)にな
りました。そのひとつに、子どもた
ちへの信仰(しんぎやう)の承継(てんけい)があります。
今(いま)までの信仰(しんぎやう)により気付(きづ)いた神
さまの存在(そんざい)、ご先祖(せんぞ)様(さま)への感謝(かんしゃ)の
気持(きもち)等(らう)、話す(はな)すことは難しいです
が、このお母(おかあ)さんのように、子ども
たちに伝えたいと思います。

連載 大本のぼれ話

後継者育成について

◆四代教主さまのお示しに学ぶ 後編
特任(とくにん)宣(のたま)伝(でん)使(し) 三(さん) 矢(や) 直(ちか)

「信仰を継いでくれない」という人がいます。それはやはりご両親の責任も小さくないような気がするのですが、いかなものなのでしょう。今は熱心に信仰されている人でも、子供が育ち盛りの時に、それほど熱心でなかったとか、信仰を休んでおられたとか、反対に無茶苦茶に押しつけるとか、何か問題があったのかもしれない。

ご両親が普通に信仰されていたら、子供もその姿を見て自然についてきてくれるのではないのでしょうか。反抗期などで、しばらくの間神さまから離れていても、親が信仰をしている姿を見たら、また戻ってきてくれます。信仰から離れて、もうそれっきり、ということは何か家庭に原因があるような気がします。

〔平成6年3月27日〕

三河本苑は5月より新しい神の家が完成となりましたが、高齢化が進む中、後継者の育成がなされていないため参拝者が激減しており、今後の月次祭や行事などをどうするかが大きな課題の一つです。後継者育成とは、育成の役員の役目も必要ですが、やはり信者一人一人が後継者育成担当ではないでしょうか。

「マイ祝詞」「マイ箸」「マイボトル」「マイタオル」持参でお願いします